

「大熊町ゼロカーボンビジョン」に関して町民アンケートを実施した結果を以下に示す。

- ①調査目的の1つであった家庭でのエネルギー消費量の把握については、ある程度の回答を得られたものの、電力メニューの多様化、太陽光発電の設置有無など、家庭によって状況が異なり、大熊町の家庭部門におけるエネルギー消費量を推計するまでの有益な情報を集めることは難しかった。今後は、電力事業者を通して各家庭の電力使用量データを入手するなどの方法を検討していく必要がある。
- ②町民の環境・エネルギーに対する関心は高いものの、町の取組については一部認知が低いものもある。今後は、取組の周知方法や町民を巻き込んだ取組の展開も検討する必要がある。

0. 調査概要

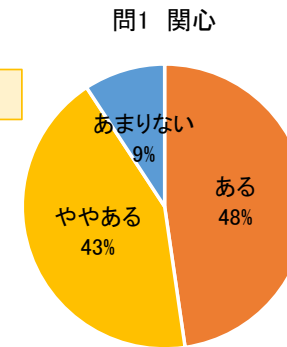
調査期間	2025年11月20日(木)～12月5日(金)			
調査票	配布数	200 件		
	回答数	65 件	(調査票 45 件	Web 20 件)
	回答率	32.5%		

1. 環境やエネルギーへの関心について

問1 環境やエネルギーなどについて関心がありますか。

関心がある	31
やや関心がある	28
あまり関心がない	6
計	65

約9割が「関心がある」と回答



問2 環境やエネルギーで関心がある分野は何ですか。また、それらの情報を何から得ていますか。

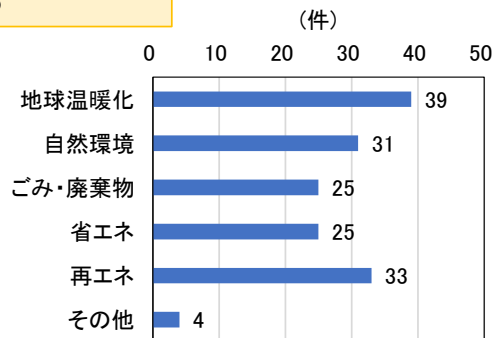
※問1で「1 関心がある」または「2 やや関心がある」と回答された方のみ

<関心がある分野>

地球温暖化	39
自然環境(水・大気含む)	31
ごみ・廃棄物(リサイクル含む)	25
省エネルギー	25
再生可能エネルギー	33
その他	4

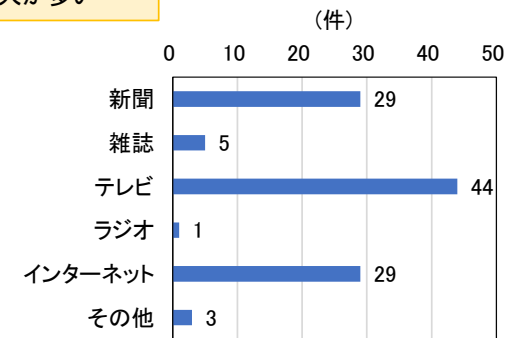
・「地球温暖化」「再エネ」「自然環境」などへの関心が高い
 ・原子力等のエネルギーに対する関心もある

問2-1 分野



テレビ、新聞、インターネットなどから情報を得ている人が多い

問2-2 情報源



その他…日本のエネルギーバランス(エネルギー安全保障)(1)、原子力(2)、既存のエネルギー(1)

<情報源>

新聞	29
雑誌	5
テレビ	44
ラジオ	1
インターネット	29
その他	3

その他…仕事(2)、自分の目(1)

問3 ご家庭で環境のために取り組んでいらっしゃることはありますか。

	1 日頃から	2 時々取り	3 あまり取	4 設備を持	未回答	計
①家庭内での省エネ(節電など)	37	16	7	3	2	65
②太陽光パネルや蓄電池などの設置	25	2	0	34	4	65
③節水	28	19	15	2	1	65
④ごみの分別やリサイクル	56	7	1	1	0	65
⑤環境に良い商品の購入	18	23	20	1	3	65
⑥環境に良い自動車の利用	12	4	15	31	3	65
⑦公共交通機関や自転車、徒歩での外出	10	16	30	6	3	65
⑧その他	2	0	0	0	63	65

その他…食品ロス削減(1)

- 1 日頃から取り組んでいる
- 2 時々取り組んでいる
- 3 あまり取り組んでいない
- 4 設備を持っていない

・「ごみの分別、リサイクル」「家庭内での省エネ」「節水」などは多くの人が取り組んでいる
 ・「太陽光発電や蓄電の設置」「環境に良い自動車の利用」などの設備導入は取り組んでいる人が少ない

Ⅱ. 大熊町のゼロカーボンに向けた取り組みについて

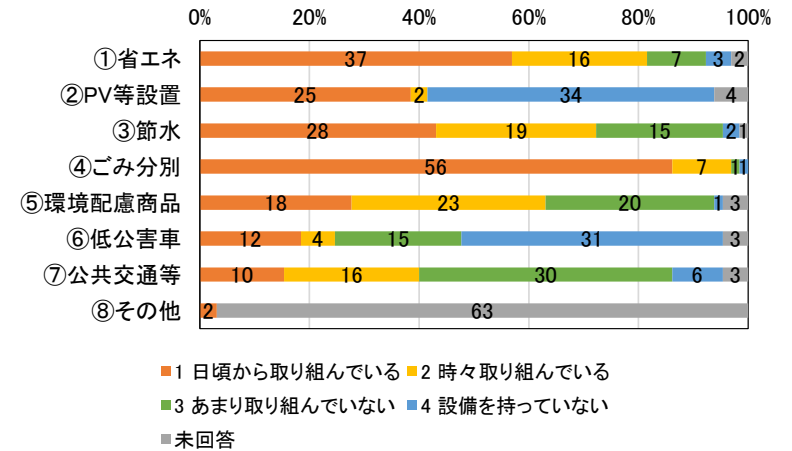
問4 大熊町の取組をご存じですか。

	1 見た/利	2 知ってい	3 聞いたこ	4 知らなか	未回答	計
①「大熊町ゼロカーボンビジョン」	7	29	19	7	3	65
②「マンガでわかる大熊町ゼロカーボンビジョン」	3	9	9	41	3	65
③公共施設への太陽光パネルや蓄電池の設置	11	42	5	6	1	65
④町役場ロビーの「大熊町再エネ見える化システム」	10	22	10	20	3	65
⑤下野上地区スマートコミュニティ	4	10	10	38	3	65
⑥地域新電力会社「大熊るるるん電力(株)」の設立	4	21	15	23	2	65
⑦町役場での再生可能エネルギー100%電力の使用	0	17	18	26	4	65
⑧生活循環バスへの電気バス導入	14	32	11	7	1	65
⑨先進技術の実証実験の実施	4	17	11	30	3	65
⑩大熊町ゼロカーボン補助金の交付	20	18	7	19	1	65
⑪町内の緑化の推進	7	24	5	27	2	65
⑫町内事業者へのエネルギー使用量報告書制度の実	2	8	7	45	3	65

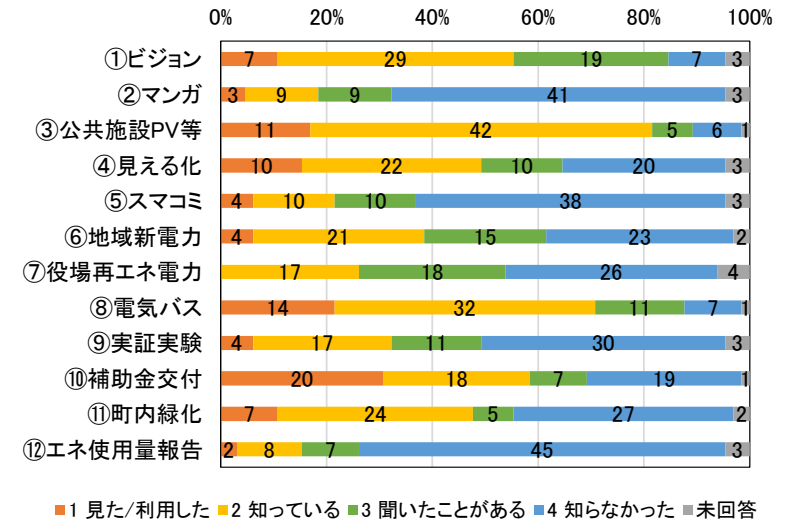
- 1 見た/利用したことがある
- 2 知っている
- 3 聞いたことがある
- 4 知らなかった
- 未回答

・「公共施設への太陽光パネルや蓄電池の設置」や「生活循環バスへの電気バス導入」など8割程度の人に認知されている
 ・「ゼロカーボンビジョンのマンガ」「下野上地区スマコミ」「役場での再エネ電力使用」「先進技術の実証実験」などは認知が低い

問3 家庭での取組



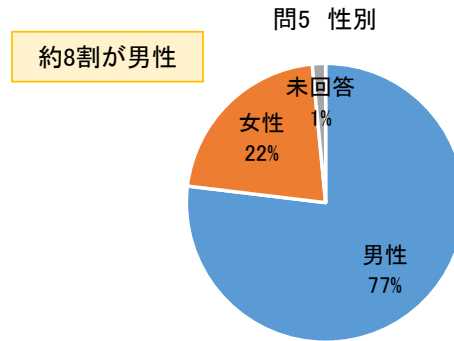
問4 大熊町の取組



Ⅲ. ご回答者の属性等について

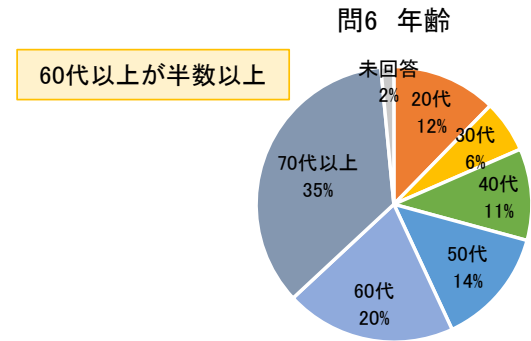
問5 性別

		調査票	Web
男性	50	35	15
女性	14	9	5
未回答	1	1	0
計	65	45	20



問6 年齢

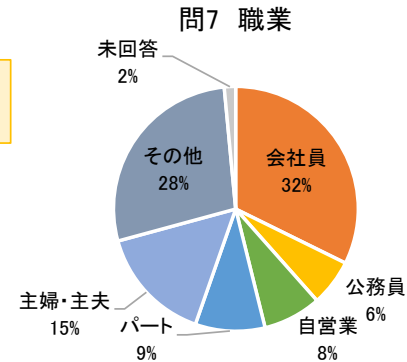
		調査票	Web
10代	0	0	0
20代	8	3	5
30代	4	1	3
40代	7	1	6
50代	9	5	4
60代	13	11	2
70代以上	23	23	0
未回答	1	1	0
計	65	45	20



問7 職業

会社員	21
公務員	4
自営業	5
パート・アルバイト	6
主婦・主夫	10
その他	18
未回答	1
計	65

会社員、公務員で約4割
主婦・主夫、パート、その他で約5割



自営業…経理事務 (1)、理容業 (1)、会社役員 (1)、建設業 (1)、農業 (1)
その他…無職 (10)、年金生活 (4)、未回答 (4)

問8 居住地域

大川原地区	25
野上地区	6
下野上地区	22
熊地区	7
小入野地区	4
未回答	1
計	65

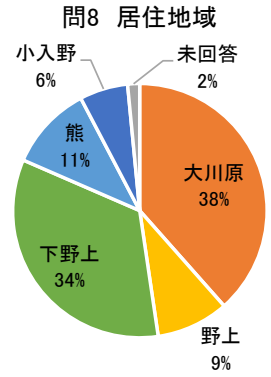
問9 居住期間

1年未満	18
1～3年未満	21
3～5年未満	10
5年以上	15
未回答	1
計	65

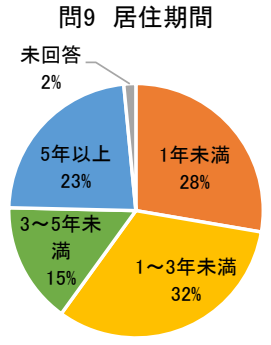
問10 世帯人数

1人(単身世帯)	28
2人	28
3人	3
4人	2
5人	1
6人以上	2
未回答	1
計	65

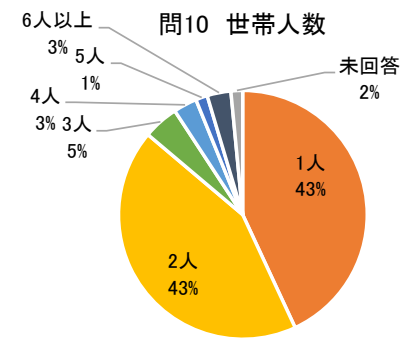
大川原地区と下野上地区で
約7割



居住期間は
3年未満が6割



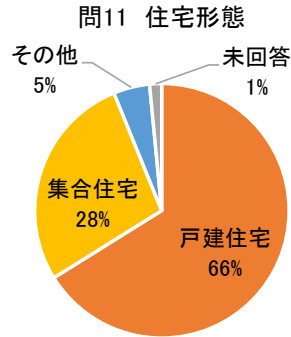
1～2人世帯が
8割以上



問11 住宅形態

戸建住宅	43
集合住宅	18
その他	3
未回答	1
計	65

その他…災害公営住宅 (1)、町の公営住宅 (1)、社員寮 (1)

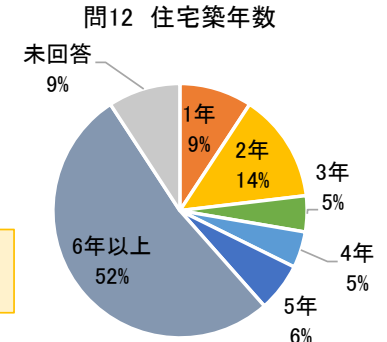


戸建て住宅が
6割以上

問12 住宅の築年数

1年	6
2年	9
3年	3
4年	3
5年	4
6年以上	34
未回答	6
計	65

築年数が6年以上
の住宅が半数



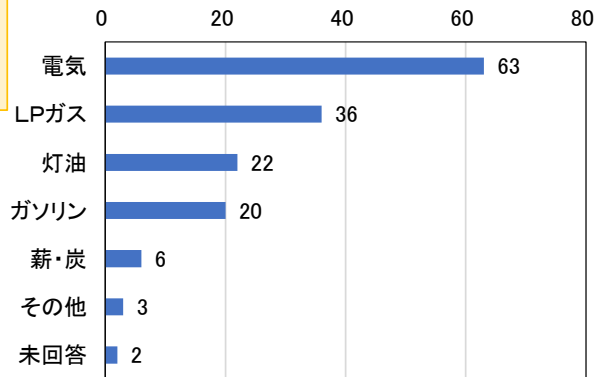
問13 住宅で使用しているエネルギー

電気	63
LPガス/プロパンガス	36
灯油	22
ガソリン	20
薪・炭	6
その他	3
未回答	2

その他…軽油 (2)、ソーラーパネル (1)

LPガスまたは灯油を
使用している家庭は
6割 (40件)

問13 使用エネルギー



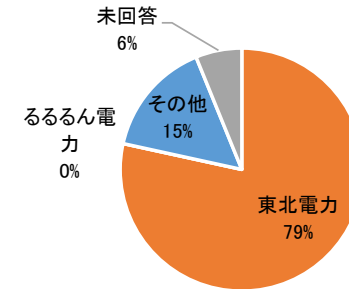
問14 使用している電力について

<電気事業者>

東北電力	51
大熊るるん電力	0
その他	10
未回答	4
計	65

その他…PinT (2)、東京電力 (2)、東北お得電力 (1)、サイサン (1)、Japan電力 (1)、未回答 (2)
※ (株)サイサン…エネワンでんき (ガスワングループおよび中部電力ミライズグループが販売する電力ブランド) を販売

問14-1 電気事業者



東北電力は8割
その他新電力等は1割以上

<契約種別または電力料金プラン>

東北電力	従量電灯B	従量電灯Bよりも基本料金がお得になるプラン
	よりそう+eねっとバリュー	日中も電気を多く使用する家庭向けプラン
	よりそう+ファミリーバリュー	夜11時から朝7時までの時間帯がお得なプラン（現在受付終了）
	よりそう+ナイト8(2)	夜10時から朝8時までの時間帯がお得なプラン（現在受付終了）
	よりそう+ナイト10	エコキュート、エアコンを使用のオール電化住宅向け。夜間や休日を中心に電気の使用が多い家庭向けプラン
	よりそう+スマートタイム(2)	ヒートポンプ機器を使用するオール電化住宅向け、それぞれのピーク時間に電気の使用を節約すると電気料金が得になるプラン（現在受付終了）
	よりそう+ナイト&ホリデー(2)	平日夜10時から朝8時までと休日が得になるプラン
従量電灯B(5)	主に一般の家庭向けのプラン	
従量電灯C	主に商店や事務所などで電気を使用するプラン	
従量電灯		
東北電力フロンティア	スマートでんき	毎月の「スマート電気割」があり、東北電力の従量電灯Bよりもお得になるプラン
東京電力	スタンダードS	一人暮らしからファミリーまでを対象としたプラン。アンペアブレーカ(電流制限器)または電流を制限する計量器による契約(10A~60A)
東北お徳電力	お徳ナイト8(主開閉器契約)	東北電力のプラン(よりそう+ナイト8)よりもお得になるプラン
PinT	PinTでんきB	一般的なプラン

<契約容量>

20A	1
30A	13
40A	6
50A	4
60A	3
100A	3
4kVA	1
6kVA	1
8kVA	1
10kVA	3
12kVA	1
15kVA	1
30kVA	1
60kVA	1
4kW	1

<太陽光パネルの容量>

3~4kW未満	1
4~5kW未満	3
5~6kW未満	3
8~9kW未満	2
10kW	1

<年間電力使用量> ※回答27件中、実績値14件、契約プランと電気料金からの推計値4件、電気料金のみからの推計値9件

		対象 (件)	年間電力使用量(kWh)		
			最小	平均	最大
全体		27	364	6,088	22,376
世帯人数	1人	8	507	4,053	9,457
	2人	15	364	6,332	11,856
	3人	3	2,333	4,868	7,355
	6人	1		22,376	
※以下、6人家族を除く					
住宅形態	戸建	8	364	6,330	11,856
	集合	15	507	2,584	4,211
築年数	1~2年	6	507	4,655	7,355
	3~5年	4	1,864	3,738	8,621
	6~10年	5	893	6,013	11,234
	10年以上	10	364	6,586	11,856
PV	あり	10	507	4,307	10,693
	なし	16	364	6,184	11,856
ガス	あり	12	364	4,917	10,000
	なし	14	507	5,929	11,856
灯油	あり	11	364	5,643	10,693
	なし	15	507	5,329	11,856
電力以外の エネルギー	PV・ガス・灯油	4	893	3,461	8,621
	PV・ガス	1		2,333	
	PV・灯油	2	4,917	7,805	10,693
	ガス・灯油	5	364	6,523	10,000
	PVのみ	3	507	3,762	6,076
	ガスのみ	2	2,000	5,108	8,215
	なし	9	3,033	6,234	11,856

電力料金プラン
ライフスタイル
太陽光発電+蓄電池
他のエネルギーの使用
住宅形態
…など多様化しており、電力料金から
電力使用量を算出し、大熊町の家庭
部門における電力使用量を算出する
のは困難。
町全体の電力使用量を把握するには、
より詳細な生活スタイル等やエネル
ギー使用量の調査、または、電力事
業者からのデータ提供などが必要。

問16 大熊町のゼロカーボンに向けた取組する意見・要望等

【補助金関連】

- ・ EVへの補助金はぜひ継続いただきたいです。
- ・ 太陽光パネルの容量の件、3LDKと2LDKの大きさに関係なく生活人数で決めていただきたい。3LDKに一人で住んでいる人が多い。
- ・ 緑化、環境改善をしているが、補助金についてよくわからず利用できなかった。
- ・ 太陽光パネルを、将来つけたいと思っていますが、住宅の屋根は洋瓦で、上がるとパリパリと割れるので、隣(自分の持ち物)につけたいと考えたが、同じ地番でないとダメだと聞いた。状況に応じて、対処してもらえると助かります。
- ・ 申請から入金までの時間が長い。(半年かかった)

【再エネ等の導入推進】

- ・ 水素、バイオマス(木質)、水力等利用をさらに進めてほしい。
- ・ 双葉町で太陽光発電条例ができるが、大熊町でもつくるべきではないでしょうか。

【再エネ導入等に関する課題】

- ・ 今や「ゼロカーボン」「カーボンニュートラル」は先進的な取り組みではなく、全国的に行われているものと理解しているため、町はもっと意欲的な、全国に先駆けたビジョンや施策を掲げて欲しい。
かつて原子力発電も「クリーンなエネルギー」とされ、ゼロカーボンに資するものと考えられるが、原子力政策との整合性や事故の教訓をどう捉えているのかが見えにくい。
特に、「物事を盲信しない(神話に加担しない)」ことが教訓の1つだと個人的には考えているが、町はゼロカーボンも盲信していないかきちんと検証してほしい。
例えば、放射性廃棄物にも通ずる太陽光パネル廃棄の問題、話題になりつつある風力や太陽光による環境影響、土地の将来にわたる管理などについて、本アンケート事業のように正確なデータに基づく施策決定と評価、公表を徹底してほしい。
- ・ 公営住宅や公共施設の屋根などに太陽光パネルをつける取り組みは素晴らしいと思うが、空き地に太陽光パネルがずらっと並んでいる風景を見ると除染に際するフレコンバックで黒ずくめになっていた風景を思い出して悲しくなる。世間的にも太陽光パネル=環境破壊のイメージが定着してきており、町として今後どのように舵を切るのか興味深い。
- ・ 空地に太陽光発電が多い。自然が壊れてきている。最終処分方法はどうなっている。メガソーラーが緑豊かな大熊町を壊していないか？災害の発生がないか！
- ・ 環境破壊、希少生物の保護、ソーラーパネル畑のフェンス外周りの整備はだれが責任を持つのか？皆無視してSDGsに賛成するのはどうか？本当に信義を得たのか？

【町民への周知と協働】

- ・ 町民が理解し、参加できる取り組みをお願いします。
- ・ 大変素晴らしい取組みをしていると思います。町内での生活に浸透するよう、さらなる推進活動、工夫をお願いします。

【その他】

- ・ いつもご尽力いただきありがとうございます。
- ・ 素晴らしい取組なので継続してほしい。

ビジョン改定の方向性について

創 巡 贈
る る る
——
おおくま。

2026年2月
大熊町ゼロカーボン推進課

1 ビジョン改定の背景・目的

【令和3年2月「大熊町ゼロカーボンビジョン」策定】

- 「2040年までのゼロカーボン達成」を町の目標として掲げ、ゼロカーボン推進のための各種施策を講じているところ。

【ビジョン策定以降】

- 町内では特定復興再生拠点区域の避難指示の解除を受けて、下野上地区の復興拠点に産業交流施設、商業施設、住宅、中央産業拠点等の整備が進む。
- 居住者人口も毎年増加。
- このような変化を受けて、ビジョンの策定においてデータベースの1つとなっている「大熊町第二期まち・ひと・しごと創生人口ビジョンおよび総合戦略」が昨年度に改定。
- 町内の居住人口並びに事業者の増加に伴い、町内のエネルギー消費量及びCO2排出量も増加しつつある。

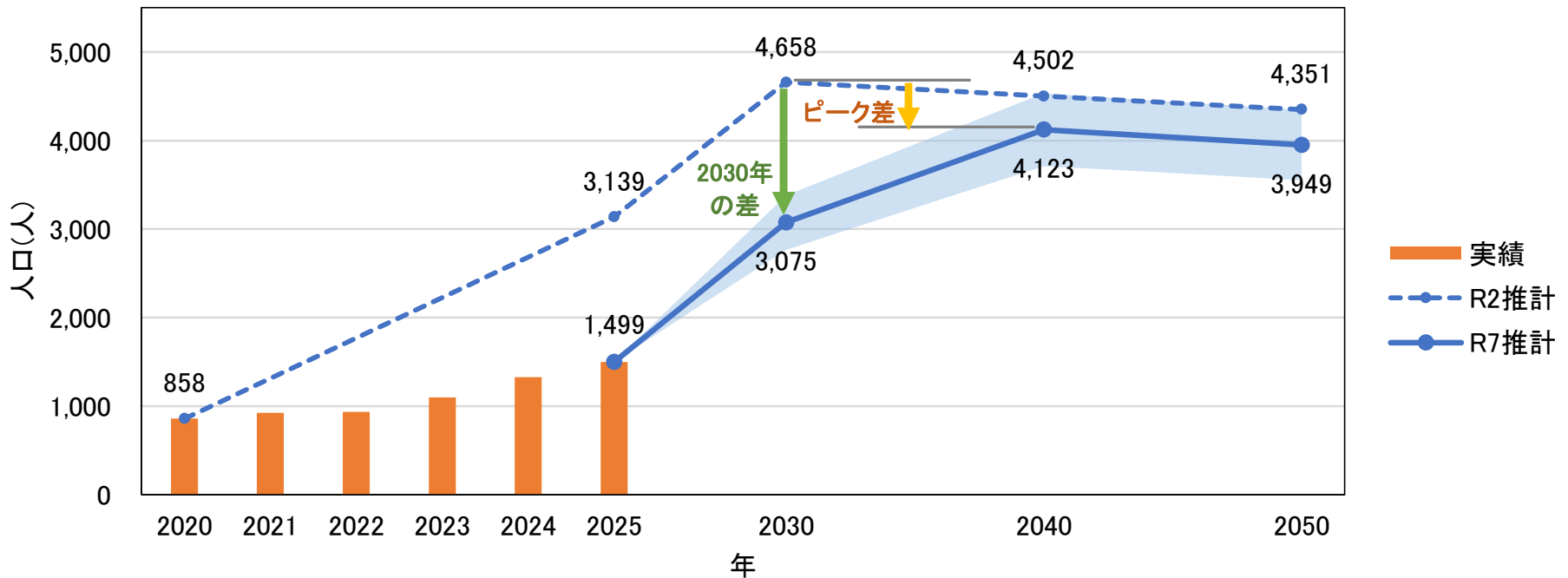


これらの状況を踏まえて将来推計及び施策を現状に即した
ものとするため、ビジョンを改定する

2 大熊町の人口推計

- 第二期人口ビジョン(R2) : **R9(2027)年** 町内居住人口 4,000人
- 第三期人口ビジョン(R7) : **R16(2034)年** 町内居住人口 4,000人
※その後2070年まで3,600人超を保つと想定
- 実績及び推計人口(R7)
2025年 1,499人 **2030年 3,075人** 2040年 4,123人 2050年 3,949人
- (参考)現ビジョンで使用している推計人口(R2)
2025年 3,139人 **2030年 4,658人** 2040年 4,502人 2050年 4,351人

町内居住人口



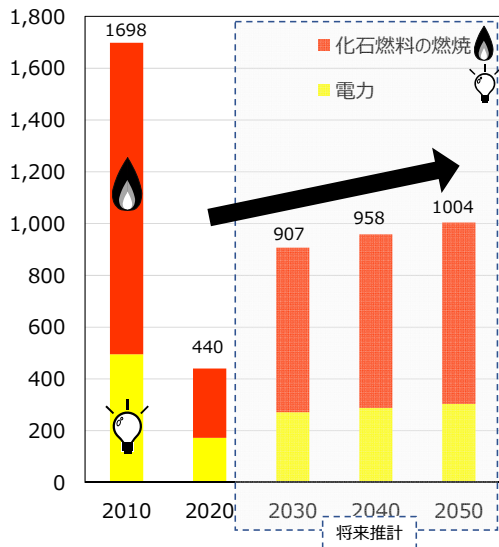
3 エネルギー消費量及びCO2排出量の推移

- エネルギー消費量及びCO2排出量ともに、現行ビジョンのシナリオよりも大きく減少
 - ① 環境再生関連事業が終了したため
 - ② ビジョン策定時の想定に比べ、町の復興速度が緩やかなため(人口等)

■ エネルギー消費量(TJ)

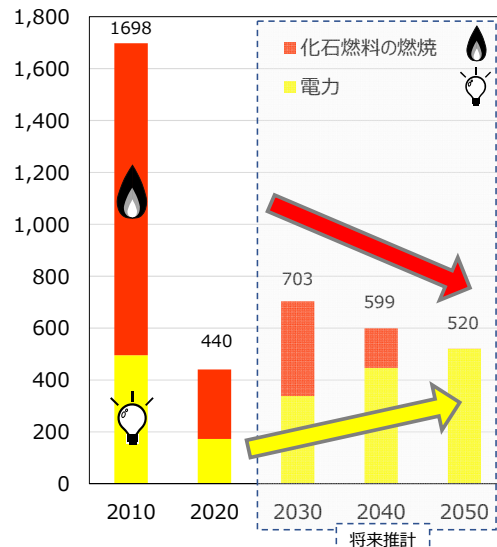
【現行ビジョン】

(1) なりゆきシナリオ



- ・経済成長により、エネルギー消費が増加
- ・電化が進まず、化石燃料利用も減らない

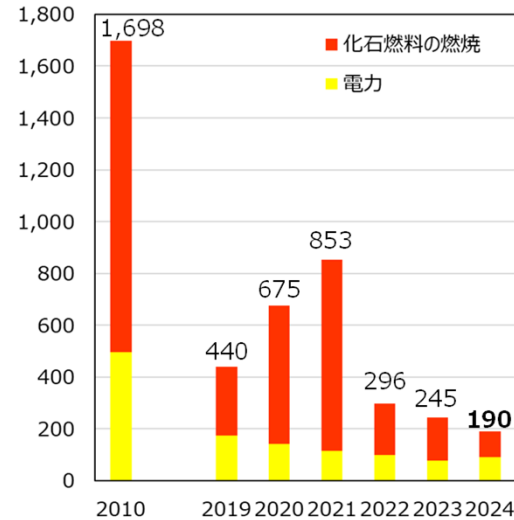
(2) 超先導シナリオ



- ・エネルギー消費量(総量)の削減
- ・化石燃料の削減(2050年にゼロ)
- ・電化の推進(2050年に電化率100%)

【実績】 第1回検討資料より

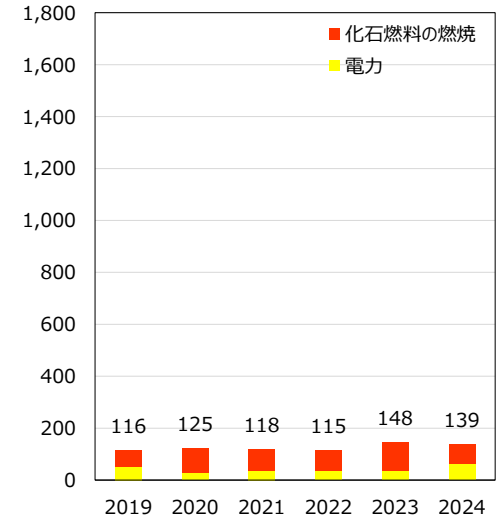
(3) 環境再生関連事業含む



■ 2024年度(実績)

- 2010年度比 -89%
- 2019年度比 -57%
- 2030年度目標比 -73%

(4) 環境再生関連事業除く



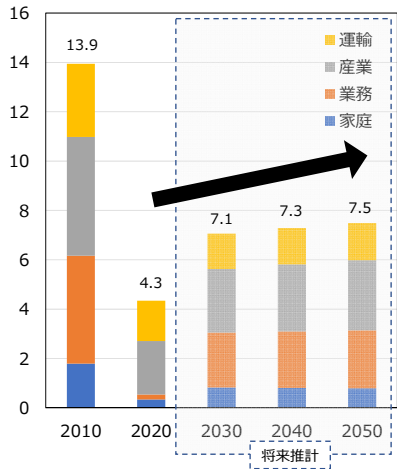
- 2019年度比 +19%

3 エネルギー消費量及びCO2排出量の推移

CO2排出量(万t-CO2)

【現行ビジョン】

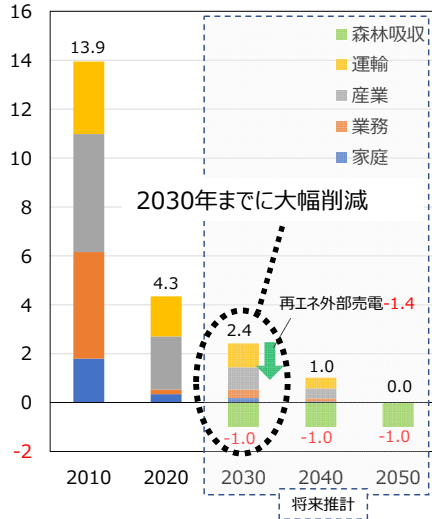
(1) なりゆきシナリオ



2050年に7.5万トンを排出

※森林施業を再開しない場合には、CO2吸収はカウントできない。

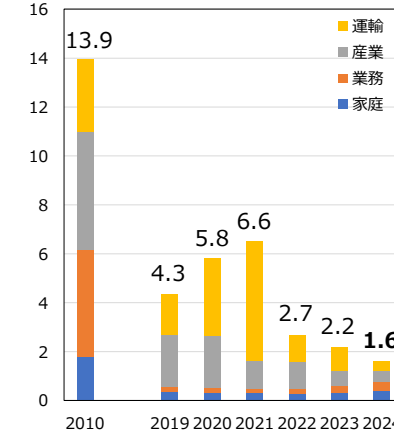
(2) 超先導シナリオ



2030年までに域内電力100%再エネ+外部供給
2040年にゼロカーボン
2050年にマイナス1万トン

【実績】 第1回検討資料より

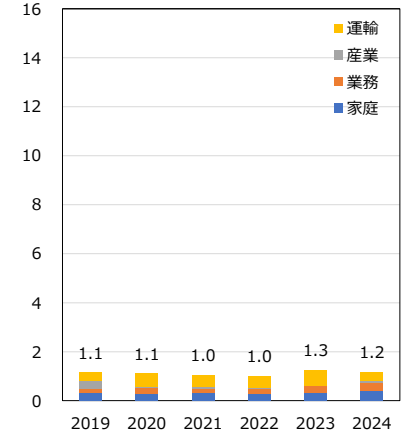
(3) 環境再生関連事業含む



2024年度(実績)

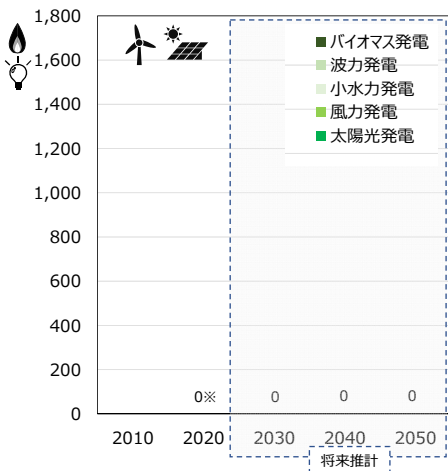
2010年度比 -88%
2019年度比 -63%
2030年度目標比 -34%

(4) 環境再生関連事業除く

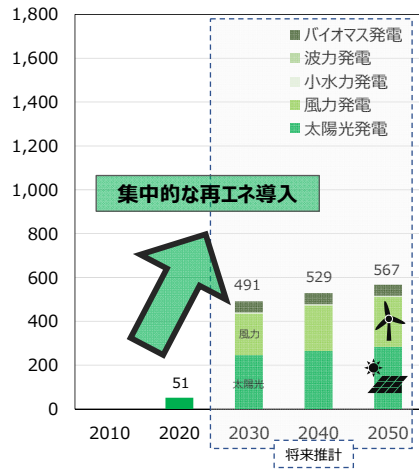


2019年度比 +2%

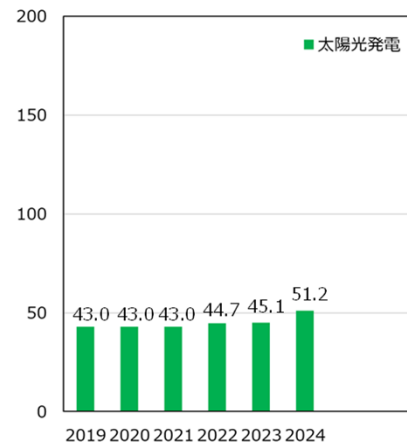
再エネ供給量(TJ)



※実際には2020年時点で一部再エネが導入されているが、ここでは比較のため、ゼロとしている。



・2030年までに合計90MW程度の再エネを導入し、電気の100%再エネ化を実現



※2025年度以降は阿武隈風力発電所(9.6MW)による供給量約23,500MWh(約85TJ)も追加される見込み

太陽光51TJ+風力85TJ=136TJ
⇒2024年度のエネルギー消費量(138.5TJ)の大半をカバーする
⇒2030年度目標値の27.7%

(参考)大熊町内の主な再生可能エネルギー



阿武隈風力発電所 9600kW



大熊町ふるさと再興メガソーラー発電所 1890kW



ネクサスファームおおくま
太陽光発電 172kW



太陽光発電：CREVAおおくま 300kW、クマスUNテラス
195kW、大野南・原 公営住宅 186kW



下野上スマートコミュニ
ティメガソーラー
1800kW



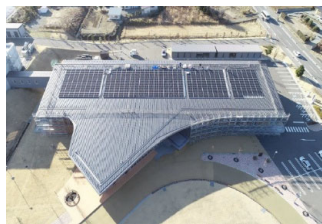
大熊エネルギー・メガ
ソーラー発電所
8600kW

坂下ダム小水力発電 49kW
(予定)

大熊町内再エネ導入量
23,451 kW
(23,500 kW)

太陽光発電：13,851kW
風力発電：9,600kW
(小水力発電：49kW)

[2025年9月時点]



太陽光発電：大熊町役場 155kW、linkる大熊 61kW、住民福祉センター 31kW、
福祉事業者事務所 31kW、公営住宅 316kW、学び舎ゆめの森 53kW

その他太陽光発電
(補助金交付)
太陽光パネル(2件) 10.5kW
ZEH(8件) 45.5kW
ZEB(1件) 6.6kW
計 62.6kW
※2024年度交付実績より
算出。今年度分については
現在集計中。

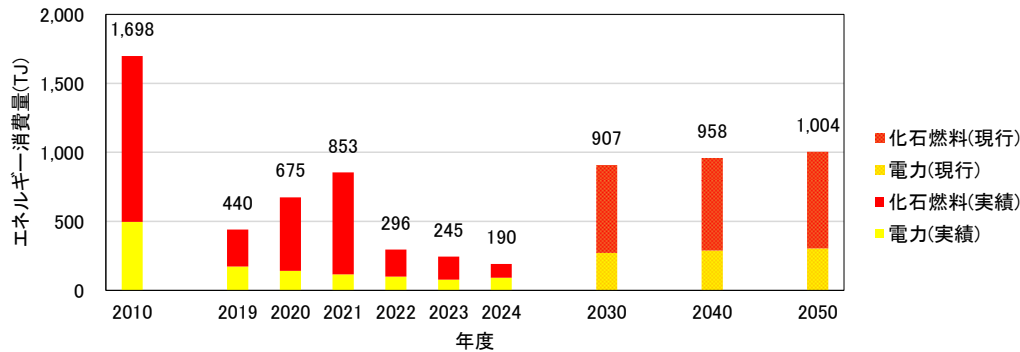
4 なりゆきシナリオの再推計(暫定値)

- 現行ビジョンにおける「なりゆきシナリオ」を、新しい推計人口を使用して推計し直した場合
 - エネルギー消費量… 2030年度 -35% (907TJ →586TJ)
2050年度 -12% (1,004TJ →888TJ)
 - CO2排出量 …………… 2030年度 -39% (7.1万t-CO2 →4.3万t-CO2)
2050年度 -14% (7.5万t-CO2 →6.5万t-CO2)

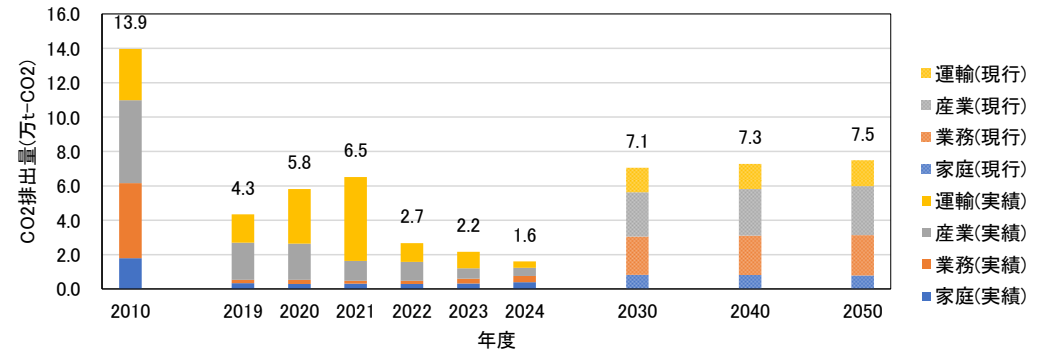
■ エネルギー消費量(TJ) ※環境再生関連事業含む

■ CO2排出量(万t-CO2) ※環境再生関連事業含む

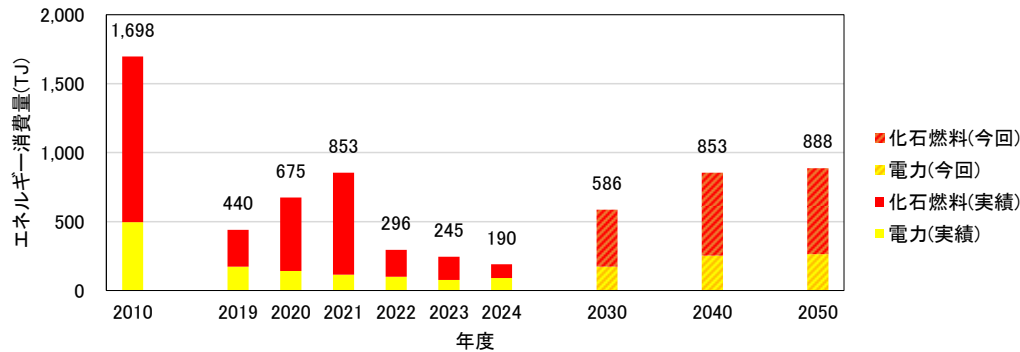
実績+現行ビジョン



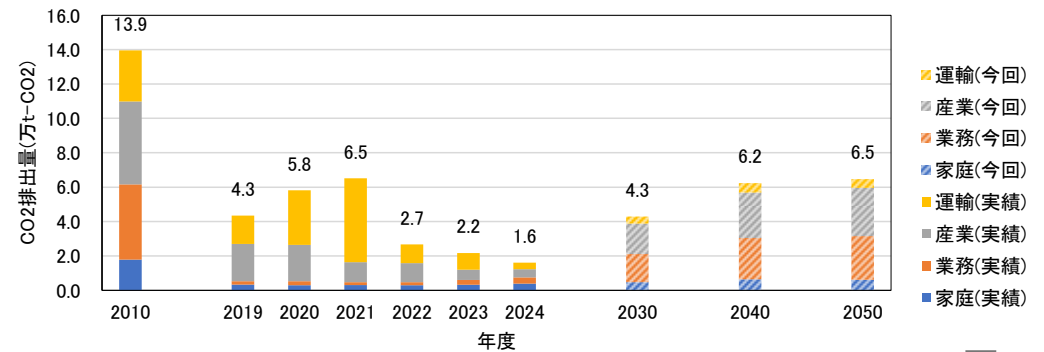
実績+現行ビジョン



実績+今回推計



実績+今回推計



5 ビジョンの目標値・シナリオの見直しについて

【基準年】 現行ビジョン:2010年度

- 基準年は2010年度のままで良いか。
 - 現行ビジョンの策定当時は、町内居住者もなく、比較できる対象がなかったため震災前の2010年度を基準年とした。
 - 震災前後で、人口も町の構成もまったく状況が異なり、2010年度とは比較できない。
 - 町の復興状況と照らし合わせながらエネルギー消費量やCO2排出量を確認できる2019年度を基準とするのが良いのではないか。
- ビジョン策定の目的として「大熊町の復興実現」とあるため、2010年度の数値も参考として残しておく。

【目標値・シナリオ】

- 環境再生関連事業を含めた目標・シナリオが必要か。
 - 現在、中間貯蔵施設に埋め立てられている県内から集められた除去土壌等を、2045年3月までに県外で最終処分を完了する予定。
→再び、環境再生関連事業によるエネルギー消費量・CO2排出量が増加する懸念がある。
- 大熊町で管理できる範囲とし、環境再生関連事業を含めた数値は参考値としたい。

6 施策の方向性について（施策の進捗状況、町の復興状況より）

【施策の進捗評価からの視点】

- 今後の町内の居住人口増加や企業立地が進むことに伴うCO2排出量の増加に対する、大規模な再エネ電源の確保
- 次の段階として、公共(行政)から町民・事業者を巻き込んだ取組への移行・追加
- ゼロカーボン推進課のみでなく、全庁一丸となって取り組むための体制構築

【大熊町の復興からの視点】

- 町の復興に向けて、ゼロカーボンだけでなく、居住者(帰還、移住)の増加に資する施策も重要

■ 考えられる大熊町の魅力アップに資する事項

- 快適な住宅の供給
- コスト削減、経済的メリット
- 多様なサービス、生活利便性の向上
- 働く場所の提供、職業の選択肢の増加
- 教育システムの向上
- 安全・安心の提供(防災、防犯)
- 豊かな自然(自然環境との共生、ゼロカーボン含む)
- 特産品(食、製品など)
- 信頼できる人間関係(コミュニティ形成)

6 施策の方向性について（第1回ビジョン検討会より）

【住宅】

- 住宅の環境性能・住み心地の向上
- ZEH補助金の交付金額、仕様の見直し(国の水準、使い安さ等を考慮)
- ZEHを設計・施工できる町内事業者の増加・育成

【交通】

- EVの利便性向上(充電スタンドの設置)
- モビリティの利便性向上(2拠点(駅前～大川原)をつなぐ など)

【再エネ】

- 太陽光発電:公共施設には概ね導入済み。今後増える住宅や事業所への導入を促進
- 建物屋根面への導入の可能性(ソーラーシェアリング、ソーラーカーポート他)
- 地域マイクログリッド運用における行政と大熊るるるん電力との連携強化
- 防災などの観点からの導入

【PR】

- 住民の意識向上(見える化するアプリなど)
- 視察の受け入れ体制の構築、視察のパッケージ化
- 町外へのPR(ゼロカーボン宣言や取組に共感した人や企業が集まる)

【実施体制】

- 町職員の意識改革、体制づくり

6 施策の方向性について（案）

【全体】

- 施策の大きな枠組みは変えずに、取組内容を若干組み替える
- 次の段階として、公共(行政)から町民・事業者を巻き込んだ取組へ移行させる
- そのための体制やコミュニティの構築、人材育成などにも取り組む
- 復興を目的としていることから、ゼロカーボン以外の付加価値を提供する取組も推進する

<p>再エネ +安全・安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 町の自然環境への影響に配慮しつつ、多様な再エネ電源を導入 • 地域新電力を中心とした地産地消システムの構築 • 防災面からも住宅・建築への太陽光発電+蓄電池の導入を推進
<p>住宅・建築 +快適性&経済性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ZEB、ZEHの導入及び省エネ改修等の促進を継続 • 家庭におけるエネルギー使用量(料金)の見える化などの導入
<p>交通 +利便性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • EV、FCV等の低公害車の導入促進を継続 • 生活循環バスなどのダイヤ見直し、その他交通手段の検討
<p>産業 +企業イメージ向上 +雇用促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 産業団地への再エネ電力供給(再エネ電力の調達) • ゼロカーボンに資する企業及び関心のある企業の誘致
<p>人材育成 +PR</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 環境学習機能の整備 • 環境学習機能と連携した取組(観光・町外PR、日常生活の取組、コミュニティ形成)

6 施策の方向性について（町民アンケートより）

※ 回答者の7割が50代以上であることに留意

【町民の関心・取組】

- 環境やエネルギーに関心がある人が大半を占める。特に、地球温暖化や再エネの関心が高い。
- ゴミの分別や省エネなどに取り組んでいる人が多い。一方で、PV・蓄電池や低公害車など、設備の導入や交通関連の取組については取り組んでいる人が少ない。

【町の取組の認知】

- 公共施設への太陽光発電システム設置や生活循環バスへのEV導入などについては7～8割が知っている。
- ビジョンのマンガ、下野上スマコミ、役場での再エネ電力使用、地域新電力設立、実証実験の実施などは、認知度が低い。

【電力】

- 契約している電力事業者は、東北電力以外も1割以上ある。

【その他意見】

- 補助金への関心は高い一方で、不都合も生じている。
- 再エネ導入における地域環境への影響を懸念している声がある。
- 「町民が理解できる・参加できる取組」「町内での生活に浸透させるための推進活動・工夫」との要望がある。

⇒全体的に町民への周知が不足している印象

- 基本的にビジョンの構成は変更せず、近年の国や町の状況等を追加し(2章)、シナリオと施策について内容を見直す(3~4章)
- 事務事業編(5章)を更新、適応策(6章)を新規作成、推進体制と進行管理(7章)を追加、8章以降は必要に応じて変更する

第1章 大熊町の目指すゼロカーボン社会

- 1 ビジョンの策定背景
- 2 ゼロカーボンビジョンの基本的事項
- 3 ゼロカーボンビジョンの基本戦略
- 4 大熊町の目指す将来像(イメージ)
- 5 ゼロカーボンを巡る大熊町の政策推進の考え方

基本的に変更なし
状況に応じて文言等を
修正

第2章 地球温暖化対策と大熊町の現況

- 1 地球温暖化の基礎知識
- 2 ゼロカーボンを巡る国内外の動き
- 3 大熊町の概況
- 4 大熊町における再生可能エネルギーの導入ポテンシャル

国内外の動き、大熊町の
概況等について最新の
情報を記載

第3章 ゼロカーボンに向けた戦略策定

- 1 ゼロカーボンに向けた基本戦略 ~3つのステップ~
- 2 震災前(2010年度)のエネルギー消費とCO2排出量
- 3 現在(2025年度)のエネルギー消費とCO2排出量
- 4 将来シナリオの設定
- 5 シナリオの推計結果 ~CO2~
- 6 シナリオの推計結果 ~経済~
- 7 シナリオの推計結果 ~まとめ~

現況を最新データに更
新
各シナリオを見直し

第4章 大熊町のゼロカーボン社会の実現に向けた施策

- 1 ゼロカーボン社会の実現に向けた取組方針
- 2 対策・プロジェクトの導入イメージ
- 3 ゼロカーボンによる住民の暮らしの変化
- 4 各取組方針の取組内容

取組方針は変更なし※
取組内容を一部変更※
各取組の目標値を検討

※次ページ参照

第5章 公共施設におけるゼロカーボンの推進

- 1 公共施設における温室効果ガス排出量の排出状況
- 2 公共施設における温室効果ガス排出量削減目標及び基本方針

最新データに更新

第6章 大熊町における気候変動の影響に対する取組(適応策)

- 1 適応策とは
- 2 将来の気候変化の予測と大熊町への影響
- 3 大熊町における適応策

新規作成

第7章 ビジョンの推進体制と進行管理

- 1 推進体制
- 2 進行管理

PTを中心とした推進体
制と進行管理を記載

第8章 大熊町の算定対象範囲と今後の評価について

- 1 算定対象範囲
- 2 算定方法及び評価方法

基本的に変更なし
状況に応じて文言等を
修正

ゼロカーボンビジョンに関する会議の開催

ゼロカーボンビジョンに関する会議の開催

最新データに更新

おわりに

おわりに

基本的に変更なし
状況に応じて文言等を
修正

大熊町ゼロカーボンビジョン改定骨子（案）

- 第4章における各取組方針の取組内容については、一部変更と2030年度までに重点的に取り組むプロジェクト(★重点プロジェクト)を設定する。

取組方針① 再生可能エネルギーの最大限導入

①-1 需給一体型再生可能エネルギーの導入

- 補助金を利用しやすくし、③-1、③-2とも連携しながら更なる導入を推進(PPAにはこだわらない)

①-2 大規模電源及び安定電源の開発

- 引き続き、町内の電源を調査し導入を推進

①-3 新技術の積極的活用

- ゼロカーボン先進地として新技術の実証実験等に積極的に取り組む

取組方針② 地産地消システムの構築

②-1 地域新電力による統合的・有機的なしくみづくり

- ★大熊るるるん電力と協力し、町内の再エネを町民が享受できるしくみの本格的導入(住宅に設置されている太陽光発電による発電電力の買電、町民(個人需要家)への売電、家庭での電力消費量データの収集 等)

取組方針③ 快適で省エネなライフスタイル

③-1 おおくまゼロカーボン住宅の推進

③-2 大熊ゼロカーボン建物の推進

- 補助金を利用しやすくし、ZEH・ZEBの更なる導入を推進

③-3 モビリティのEV・FCV化

- 補助金を利用しやすくし、EV・FCV等の更なる導入を推進
- 充電設備等の整備を進め利便性を向上する

③-4 グリーン交通システムの構築

- 生活循環バスの利便性向上
- 移動手段の多様化による利便性向上

③-5 環境行動の推進(省エネ行動、ごみ減量化 等)

- ★④-3の環境学習機能との連携し、日常生活でも継続的に取り組めるしくみづくり

取組方針④ ゼロカーボンを源泉としたまちづくり

④-1 下野上スマートコミュニティ、産業団地の整備

- スマコミの運用状況の分析、他地域への展開
- 産業団地への再エネ電力100%供給の促進とゼロカーボンを目指す企業の誘致

④-2 研究、人材育成、産業集積

- 大学や研究機関と連携した技術研究及び人材育成

④-3 観光振興、環境教育、移住・定住促進

- ★町内の環境学習機能の整備

- ★環境学習機能と連携した観光(エコツーリズム)の実施

- 環境学習機能等と連携した町内外への取組PR

- コミュニティの形成

- 子育て支援との連携

- 広域防災連携推進会議と連携した町民の安全・安心の確保 ⇒ 適応策へ

取組方針⑤ 豊かな森里川海との共生

⑤-1 持続可能な森林経営の推進

- 森林の除染状況(面的除染完了/避難指示解除)に合わせた森林計画及び整備

⑤-2 グリーンインフラの整備

- 公共施設及び民間施設における緑化の推進
- 農地の回復

取組方針⑥ 官民一体の推進体制

⑥-1 推進協議会の設立・運営

- 民間も参加する実行組織の設置
- 施策のブラッシュアップ
- 条例・制度の運用見直し
- 町内のCO2排出量の推計(家庭部門、運輸部門の推計方法の検討)